

お客様紹介

株式会社

オートライフビュー 様

〒691-0003

島根県出雲市灘分町1163-1

TEL 0853-62-5575

FAX 0853-62-5780

<http://www.tokusen.info/shop/Autolife/index.html>



写真左から、日野様、満田様、神門様。行き届いた気配りで、お客様は整備の間、ゆったり待つことができます。

当社の企業理念に引かれまして、福祉車両に限らず、車両の点検・整備をどんどん引き受けます！

この福祉車両の代車はレンタカー登録され、有料でレンタルすることもできます。

福祉車両のリフトは、特殊な整備技術が必要なため、愛知県のリフトメーカーと技術提携し、研修会に参加したり、情報収集に努めています。福祉車両の点検・整備を始めて、3年になりますが、信頼関係が深まり、お客様の福祉施設数は順調に伸び、また、相乗効果として、施設職員の自動車販売や整備にも広がりを見せています。

EV事業

また、自動車業界において、ガソリン車から電気自動車へ移行する流れが、ここ2,3年急速に変化し、何も手を打たないわけにはいきませんでした。時代の流れにそって、EV事業に取り組む決意のもと、自らがEV車を作ろうと、ガソリン車をEV車に改造する技術を習得しました。既存車のガソリンエンジンを取り外し、燃料電池を搭載しモーターをつけるイメージです。来るEV車社会に備えるべく、技術の研鑽は続きます。今後、役所などの公的機関などに営業を続け、環境配慮をアピールしていきます。



軽トラック（ガソリン車）が電気自動車になりました。

このように、積極的に時代の大きな変化に対応し事業拡大をはかり、一方では、社員教育の面でも人材育成に力をいれています。

最後に川上工場長から、「（社員に対して）自分の会社を好きになって、誇りをもってほしい。そして、（経営理念にあるように）お客様と社員の幸せを願い、顧客満足・従業員満足ナンバーワンを目指します」と力強いお言葉をいただきました。（聞き手長野）



写真左から、川上工場長、錦織様、日野様、長岡様。チームワークバッチリで、車両点検整備は、お客様に安心して頂いています。

福祉車両の点検・整備

車を通して、人生をサポートする、そしてお客様や社員の幸せを願い、社会に必要とされる企業を目指すという企業理念のもと、平成5年に立ち上げられました。

しかし、人口減少や若者の自動車離れにより自動車の保有台数が減り、島根県の自動車販売・整備業界は、大きな転換期を迎えています。「本来の自動車販売・整備だけでは独自性がなく、将来生き残っていけない」という危機感のもと、オートライフビューにしかできないことを模索している中、車いすの昇降リフトが付いた福祉車両の整備・点検と出会いました。

福祉施設などが利用者の送迎に利用する福祉車両は市場規模が小さく、競争相手がいません。福祉施設が増設される中、福祉車両の需要も今後拡大するでしょう。福祉車両を整備に出している間は、利用者さんの送迎ができなくなり、施設も利用者さんも困られます。

その判断のもと、福祉車両の代車を2台（大・小）保有し、しかも代車を無料で貸し出します。



リフト付福祉車両

2013 初春

「人に好かれる人になることの大切さ」

新年のご挨拶に鳥取地区のお客さまを訪問した。

昨年鳥取営業所を智頭町に開設し、新しい地で大國リーダーが懸命にお客さま活動を行っている。訪問したお客さまはみな快く応じていただき、お客さまとのコミュニケーションが良く取れていることを実感した。

その中でも、S社の会長様には新規のお客さまを紹介していただくなど、開設当初から当社を応援して頂いている。

なぜ、他県から来た会社のためにそこまでして頂けるのか、

「最初に大國さんに会って話しをしたときから素晴らしい人間性を持った方で、とても素晴らしい社員さんだと思った」との答えだった。

大変ありがたい言葉を頂き、感謝をするとともに「人に好かれる人になること」が商売の基本であると感じた。

鳥取地区に限らず他の地域でも同様に、お客さまに好いて頂ける営業活動を行っている。

結果として、お客さまから必要とされる人と会社になる事ができると思った。（安原）



「負けな！」を読んで

伊達公子さんは6歳からテニスを始めたそうです。しかし、初優勝したのは高校一年のときで、それまでは負けてばかりでした。高校一年の初優勝までに、負けなためのメッセージが書かれていました。

特に心に響いた言葉があるので、紹介します。

- ・「くやしさを次への力に変える」
本気でくやしいときほど力が出せ、なにくそと思うから頑張れる。
- ・「まわりの応援に感謝する」
自分に対して応援をしてくださる方々に対して、謙虚な言葉であり、非常に心に残りました。私も応援があるとうれしいし、かなりパワーが出てきます。

この本には、素直な負けず嫌いなれば強くなれると書いてありました。私も高校生の頃から、現在に至るまで、バスケットボールをしています。チームワークがとても大事で、当然チームメイトと協調あるプレーが求められます。スポーツに限らず、周りからのアドバイスなどを素直に聞ける人間になりたいと思います。（金森）

松江営業所～information～



松江営業所の環境整備が進んでいます。福島シニアマネージャーの丁寧な作業により、地下タンク注入口近辺、構内入り口の白壁がとてもきれいになりました。ありがとうございます。

元気の出る言葉

中村天風師

敵をも愛して、広き心をもって、人生に相對せよ

自分の人生のまえにあらわれるものは、自分というものの価値認識のために必要な、相対的なものだと考える。相対するものがないから、孤独です。孤独であれば、自分の価値は誰がさだめてくれるのでしょうか。敵があつてはじめて自分の価値が定まると言っています。（長野）



ピナンカスラの実。昔、つるから粘液をとって整髪料にしたことから命名されたそうです。小さな実がひとつかたまりの球状になり、また、実全体はピンポン玉位の大きさです。

生き方

人間として一番大切なこと
稲盛和夫著 サンマーク出版刊



私が尊敬する師匠の本ばかり登場させてちょっと遠慮します。しかしいいものは、いいと開き直って、稲盛和夫氏を登場させます。

この本は、9年前平成16年に稲盛氏が72才の時初刊され、ベストセラーになり、私も赤い傍線を引きながら、夢中で読みました。

ところが今でも書店の棚に目立つように陳列され、ベストセラーになっています。一つの本が9年の長きにわたり、たくさんの人々に購読され続けることは、めったにないことです。本文中の言葉一つ一つに、経営者ばかりでなく、多くの人々を強く引きつける生き方があるのです。

稲盛氏は京セラ、AU、日本航空などを経営され、成功されてきました。その過程で大きい問題に直面された時に、老師から教えられた生き方。

「生きていけば、苦勞は必ずあるものです。災難にあつたら、落ち込むのではなく喜ばなくてはいかんのです。災難によって、今まで魂についていた業が消えていくのです。それぐらいの災難で業が消えるのですから、稲盛さん、お祝いをしなくてははいけません。(P236)」

私は、まだまだの自分を感じます。(山根)

《稲盛和夫著作及び関連本紹介》

- 君の思いは必ず実現する
 - 人を生かす
 - 人生の王道
 - 働き方
 - ガキの自叙伝
 - 成功への情熱
 - 哲学への回帰
 - 実学～経営と会計
 - 哲学
 - 経営に求められる力
 - 心を高める経営を伸ばす
 - 実践経営問答
 - 新しい哲学を語る
- *全て貸し出しできます

編集後記

久々にいい映画に出会った。ヴィクトル・ユーゴーの小説をもとに映画化された「レ・ミゼラブル」である。貧しさからパンを盗み、19年も投獄された男の波乱に満ちた人生を描いている。ミュージカル仕立ての映画であるが、歌によって感情やその場の情景などを見事に表現されている。無情な人生、幾度と襲ってくる絶望感をジャン・ヴァルジャンが乗り越えられたのは、慈悲に満ちた愛があったからだと思う。いろいろな愛の形があると思うが、自分に顧みて、今年一年、私の周囲全ての人やものについて、「愛」をもって接し取り組んでいこうと思う。(長野)

「君に成功を贈る」(中村天風)を購入希望の方は、弊社までお知らせ下さい。書店での取扱が無い場合、出版局から取り寄せてお届けします。本代は¥1,890です。

今月のクイズ

解答を下記編集部までお寄せ下さい。応募の方法は、ファックス、電子メール、ハガキ、営業マンに渡しただけでも結構です。正解者の中から抽選で1名に安来産いちごを差し上げます。クイズの締切は1月末です。奮ってご応募下さい。



新しい檜皮葺きが終わった御本殿大屋根。(HPより引用しました)

Q:平成の大遷宮が行われている出雲大社で、本殿の大屋根のふき替えに使われた檜皮(ひわだ)の数はどのくらいでしょうか? 約〇〇万枚でお答え下さい。

先月号の答は、「斐伊川」でした。北栄町小椋様が当選です。おめでとうございます。

応募用紙(答)

会社名または住所、氏名

FAX 0852-37-2472 E-mail h.nagano@e-skk.co.jp

蔵書新着情報

- ・未来に続くいのちのために原発はつくらない PKO法「雑則」を広める会(千賀顧問より寄贈)
- ・トヨタの片づけ OJTソリューションズ 中経出版
- ・できる20代は知っている!若くても信頼される人の話し方 山本幸美 すばる会
- ・iPS細胞がわかる本 日本科学未来館 PHP研究所
- ・100円のコーラを1000円で売る方法 永井孝尚 中経出版

発行日: 毎月10日
発行: 690-0025 島根県松江市八幡町796-20
TEL 0852-37-2470 FAX 0852-37-2472
山陰興業(株) ECO'S通信編集部 長野
E-mail: h.nagano@e-skk.co.jp
印刷: 授産センターよつば 印刷係

ホームページ公開中(<http://www.e-skk.co.jp>)

山陰興業蔵書本をお貸しします 本誌で紹介した蔵書本等、広く皆様にお貸し致します。営業マンや当編集部へ遠慮無くお申し付け下さいませ。



広がる図書の輪

会社蔵書の新着情報や「社長が薦める今月の一冊」のコーナーで、読者の皆様に図書の紹介をしています。それが皆様の目にとまり、いろいろなご縁ができました。

PHP研究所発行の、「天敬愛人 ゼロからの挑戦」を是非、借りて読みたい。PHP研究所の本は以前からたくさん読んでおり、大変興味を持ちました。ゆっくり読みたいです。(K会S様)



今月の書籍紹介を読ませてもらい、さっそく自分の購入リストにいれました。「賢い人ほど失敗する」「ディズニーサービスの神様が教えてくれたこと」(M学校K様)



以前読んで感動した本を数冊寄贈したいと思います。内容は、①山元加津子著の3冊 ②ジャン・ジオノ著の2冊です。山元かっちゃんのことは昨年11月、地元ラジオ放送局の講演で知り、一度お会いしたい方だと思っている素晴らしい人です。ジャン・ジオノの「木を植えた人」は1987年頃、出会った本で心から感動を覚えた短いお話で、生涯で1冊選ぶならこの本です。(K社Y社長より)



最近、電子書籍などが台頭してきていますが、自分が読みたい本と出合うチャンスがなかなかありません。他薦でも「おやっ」と目に留まる本があれば、チャンス到来です。昨年は、たくさんのお客さまから本のリクエスト等を頂き、読書ファンの広がりを感じています。T社様からは、「借りた本はスタッフみんなで読んでいます。」また、S様からたくさんのお本を寄贈いただき、S文庫も創設しました。

そんなご縁を大切に、今年は、図書を通して皆様とのコミュニケーションをさらに深めていきたいと強く思います。気になる本があればお貸ししますので、編集部または営業マンにご一報ください。(長野)



地域発の新しいエネルギーを完成させる

・周りから、お客さまから素晴らしいといわれる社員と会社になる・

社長 山根久志

私の尊敬するユニチャームの創業者高原慶一朗氏の言葉に「人として生まれた幸運をほんとうに感じるのは、〈お客さまのお役に立った〉ときではないでしょうか。」とあります。

昨年の暮れに、こんなお客さまお役立ちがありました。

1、O社様への緊急な出荷要請に応えた。（山陰興業）

工場のトラブル復旧のために、12月再生重油100KL出荷の緊急な追加要請あり。当社では無理。そこで中・四国の業者さんに協力を要請し、年末の繁忙期ながら四国2社さんから、快諾を得た。

片道350km、4時間30分の配送。品質保証のため当社は全行程随行。最小限の粗利益しか確保できない。しかしお客さまのトラブル復旧を最優先することを決定。

結果31日12時30分最終の納品完了。しかも目標を超える120KL納品で、無事お客さまのお役に立ったと自負する。

2、親孝行が正月に間に合った。（サマンサリフォーム）

年の行ったご両親に親孝行したい娘さんが、社員と一緒に2年越し考えに考えた計画。そして新年から気持ちがいい家に住まわせてあげようと決定し、スタートしたのが11月10日。

13工程にわたる緻密な工程管理。最重要ポイントは大工工事の工程短縮。二人の大工がチームワーク良くスタート。現場の5S、清掃を着実に実行する大工。これに呼応して社員も一緒に片付け、掃除をする。やがて他の業者達も、自分の工程を着実に、安全に完工していく。

最初心配で不安がっておられたお客さまは、期待感と笑顔がじょじょに高まる。そして12月25日無事完工、引き渡す。ご家族がそろって笑顔で正月を楽しまれたと信じます。

この二つの事例で私たちが学んだことは、お客さまのお役に立ちたいという利他の心。つまり次元の高い目的を持つことが自分自身の意欲を高めてくれる。その上周りの人たちにも最上だと思ってもらえる目的になり、全体のエネルギーを上げることができるのです。

私はこう考え、こう実行します

【安原】高い目的を持って、お客様に徹底してお役に立つことを考える。

【松下】お客様訪問をし、小さい困り事でも聞くことで、お役に立てることを形にする。

【河上】お客様のトラブルがあれば、即行動。

【岸本】お客様のお役に立てるように、お客様の話をよく聞き、サービスを提供していきます。

【福岡】お客様を一番として、優先順位を考え、時間を有効に使う。

【福島】お客様のご要望に即応える。

【吾郷】お客様のお役に立ち、お客様から「吾郷くん頼むよ」と言われる関係を目指します。

【山口】私は笑顔で元気よく仕事をします。

【木村】試料のデータ取りによる品質向上を目指す。

【木村憲】人の役に立つ。

【榎並】顧客管理システムをフル活用できる様に整備をし続け、更にシステムを進化させます。

【横地】自分の行動は常に周りから見られていると認識し、不快感を与えるような行動はせず、周りの人が見ていて気持ちよくなる行動を心掛けます。

【高橋】私は、残りの新バイオ事業を工程通り実行します。

【植尾】お客様の困った事を聞き改善策を提案していきたい。

【松本】お客様がどうすれば喜んでもらえるかを常に考えます。

【小村】お客様の「困った」事を聞き出せるようコミュニケーションをより一層強める。

【長谷川】お客様のお役に立つ仕事をします。

【恩村】現状に満足することなく、向上心をもっていきます。

【藤原拓】鎌田さんに教わりながら、溶接技術・物を作る技術を勉強し、良い物を作ります。

【金森】もっとお客様のお役に立ちます。

【藤原】作業時、まわりの状況をしっかり確認し安全に作業します。

【石橋】お客様からの要請は素早く対応する。

【田中】迅速・着実・丁寧な仕事を心掛けます。

【中村】現場にて、整理・整頓・清潔・清掃・安全(KY)を徹底し、安全作業が出来るよう常にチェックして作業を行います。

【足立】私は仕事の面でも、普段の生活でも「利他の心」を持って行動します。

【長谷川真】電話を通してお客様に信頼を届けます。

【長野】お客様のお役に立てるよう、常にアンテナを張って、小さなことでも地道に取り組んでいく。



コムラサキの実。実の色、大きさが似ているムラサキシキブとは、実の付き方が違います。

東京研修旅行

東京は人口も多いですが、その分選択肢も多く、どの分野でも生き残るために努力をしていることも印象に残ります。単純に流行っているだけではなく、それを維持させるための努力を惜しんでいないことも研修全体を通じて感じる事ができました。私自身、とてもいい刺激を受けました。普段感じる事のできないことをこの研修で多く学び、現状に満足せず、もっと欲をもって何事にも取り組もうと思いました。

また、留守中のバックアップ体制もよく、普段からも自然に様々なバックアップがとれる様に見える訓練のひとつの手段として、研修旅行の存在はなくてはならない会社の行事の一つではないかと強く感じました。毎日朝早くから夜遅くまで歩き回り、疲労もありましたが、それ以上に充実した非日常を経験できた4日間となりました。今回経験したことを今後の仕事にどう生かしていくかを考えて、仕事に取り組みたいです。(抜粋)
(横並)

3日目、4日目でこの研修最大の楽しみとなる東京ディズニーリゾートへ行きました。事前に本を読んでいたこともあり、私の目はまず、キャストの方の動きと園内の様子ばかりさぐっていました。入園してすぐ「どーっ」と流れ込む入園者が、安全に進めるよう通路の確保や大きな声での

誘導。より多くの方がパレードを楽しく観るための案内や注意説明。笑顔で手振りを交えて話す姿を何度も見ることができました。また、ベンチで座り、落ちていくポップコーンがどうなるのか、結末を見届けることもできました。これはいたって普通に片付けられたようにも思いましたが、片付けたキャストのほうきさばきは無駄な動きのない美しいフォームでした。これだけ見ても面白く、興味深い経験となりましたが、パーク内で普通にアトラクションに乗り、班員のみなさんと一緒になって、私自身久しぶりに童心に戻ったように楽しみました。

私はこの旅行に参加して大変よかったと思っています。まず、普段会話を交えることが少ない人や一緒に行動することのない人と、お互いを気遣いながら4日間を共に過ごした事。そして今まで気付かなかった皆さんのよい面を見られたこと。それから、時には普段の仕事を忘れ、家事を忘れ、思い切り楽しむことだけに没頭することが必要であること。日常生活、業務だけではわかりづらいことを感じた4日間と、その後の日々です。(抜粋) (足立)



ミャンマー視察

視察先で印象に残ったのは、軍事政権が終わり民主化の名の下に、第二の中国と言われ、世界から注目を集めていて、これから経済成長するミャンマー(旧ビルマ)です。1948年にイギリスから独立した「ビルマ」ですが、この独立は旧日本陸軍の指導によるものです。独立後一度は日本とも交戦していますが、日本が占領した他のアジア諸国同様に、道路、鉄道等のインフラを整備し、学校を建て教育をするなど、その国の発展に貢献したことが、今でも親日である背景ではないかと思えます。

走っている車のほとんどが日本車で、日本のメーカーのエンブレムを付けることがステータスとされているようです。ヤンゴン市内を走るバスは、「FUSO」や「HINO」のエンブレムを付けており、添乗員の話では、昭和20年から30年に日野自動車の製造工場があり、当時製造された車がまだまだたくさん現役で走っているとのことでした。ほんとうに日野自動車はミャンマーで車を作っていたかは定かではありませんが、日本からのODAで日野自動車の車輦がたくさん送られていたことは

間違いありません。

車に限らず、日本の技術がミャンマーに貢献していたことは事実です。

民主化されたとはいえ、未だ軍の力があらゆる分野に張り巡らされているなかで、今後どのように発展していくのか、非常に興味深く思います。

廃棄物に関しては、あまり関心を持たれていない(廃棄物がどうなっているか、聞いた方々は誰も判らないとのことでした。)状況でした。これから国が発展していく過程でさまざまな環境問題と同時に廃棄物の問題もクローズアップされるのだと思います。

今後、ミャンマーを含めアジアの情報等に関心を持って新聞を読みたいと思います。(抜粋) (安原)



街中を走る、日野自動車の車輦